

◆生産者が直接 PR して販売（JA 松阪きっする黒部大収穫祭）

JA 松阪ファーマーズマーケットきっする黒部は 11 月 14 日、15 日の 2 日間、大収穫祭を開催し、両日たくさんの来場客でにぎわいました。

店頭を用意された生産者テントのほか、地元野菜がたっぷり入った鍋の振る舞いや、餅つき大会なども催され、大盛況でした。

参加した生産者は「直接販売で試食をしてもらう事で、美味しさがわかってもらえ、一つでも買いたいと思ってもらえるし、売れ行きもいいです」と対面販売の効果を実感していました。

◆長寿を祝って自宅訪問（JA 松阪年金友の会）

JA 松阪年金友の会は、3 月 1 日、2 日に 100 歳以上で自宅にお住まいの会員 9 名を対象に、長寿を祝って自宅訪問しました。訪問では、西原久雄代表理事理事長が訪問対象者に「ご長寿おめでとうございます」と声を掛けながらいちごを贈呈しました。

金融部職員は「普段イベントに参加できていない方も頑張って 100 歳まで長生きしたいと思ってもらえたら嬉しい」と期待しました。

## 5. 農業振興活動

### ◇安全・安心な農産物づくりへの取り組み

東部・西部の営農振興センターでは、地域特色を生かした営農振興を図るため、地域毎・品目毎の営農指導に取り組みました。

安全・安心な農畜産物を供給するため、共販品目の生産履歴システムを活用した栽培履歴記帳の実践と GAP（農業生産工程管理）の基礎となるチェックシートを実施しました。

「安全・安心な JA 米」の取り組みとして、種子更新・栽培履歴記帳の推進・実施の取り組みを継続するとともに、残留農薬分析検査の実施に取り組みました。

水稲種子、小麦、大豆についても、栽培履歴記帳と GAP の継続実施に取り組みました。

### ◇担い手育成

水経会では、TPP をはじめとする農業政策についての研修会と先進地視察を行いました。

壮年部・JAMY 活動に対して情報提供を行い、壮年部では JAMY 会員を交え、JA 上層部との懇談会を行いました。

多様な担い手育成の一環として「菜園塾」を開講し、野菜の栽培・管理についての知識・技術の習得・向上を図りました。また、農産物流通の現状を把握するため、青果市場やファーマーズマーケットの視察研修を実施しました。

### ◇ファーマーズマーケットの充実

きっする倶楽部では、役員会、エリア別研修会、品目別研修会、県外視察研修等を開催し、会員の生産・販売意欲と知識の向上に努めました。また、食の安全性の実証として、作業日誌提出の継続と残留農薬分析検査を実施しました。

きっする黒部では、季節に応じた会員参加型イベントを開催し、地産地消や安全・安心・新鮮を消費者に向けて広くアピールするとともに、東京や名古屋の物産展へ出店し、県外消費者に松阪産農産物ときっする黒部の PR を行いました。

平成 27 年度きっする会員は 1,230 名でした。